

## 論文審査結果の要旨

報告番号	甲・(乙)第 3140 号	氏名	青木 啓一郎
論文審査担当者	主査 下司 映一 副査 加藤 京一 副査 榎田 めぐみ		
論文題名 : Predictors of discharge outcomes following percutaneous mechanical thrombectomy in patients with acute ischemic stroke -Comparisons between the home discharge group and hospital transfer group 掲載雑誌名 : The Showa University Journal of Medical Sciences (in press)			
<p>本論文の要旨は以下の内容である。</p> <p>「目的：急性期脳梗塞患者で経皮的脳血栓回収術を施行した患者が自宅に退院可能となる予測因子を明らかにすること。対象：自宅退院 32 例、他院転院 67 例の計 99 例。結果・考察：自宅退院の予測因子は術後 24 時間経過時の NIHSS と経口摂取の有無であった。抽出された 2 つの因子は、安静度が低くても評価できるものであり、自宅退院の予測を行うのに有用な評価指標になり得ることが示唆された。」</p> <p>学位論文審査として、本論文に関連する、以下の質問がなされた。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・心原性のみを対象としなかった理由は何か。</li> <li>・3 日経過時の NIHSS の関連はないか。</li> <li>・食事が摂取できることが脳機能においてどのような作用を及ぼすか。</li> <li>・心理的な側面の考慮はしなかったか。</li> <li>・作業療法士としての経験的な部分も因子として抽出した部分はなかったか。</li> <li>・本研究で扱った調査項目の選定の理由に何か。</li> <li>・家屋環境の因子の影響についてはどこまで考慮したか。</li> <li>・有意差が見られなかった項目についての考察はなかったか。</li> </ul> <p>これらの質問に対して、適切な知識と文献的な考察を踏まえて、適切な質疑応答がなされた。以上より、本論文は本学大学院学位論文(博士)審査基準を満たしており、学位論文に値すると判断した。</p>			

(主査が記載)